

東京都立五日市高等学校定時制課程 令和3年度学校経営報告

【今年度の取組と自己評価、達成度、課題と対策】

校長 久保田 聡

(1) 教育活動の目標と方策

項目	目標	取組と自己評価	達成度	課題と対策	
学習指導	ア	全教員がチャイムで授業を開始するなど授業規律を確立し、生徒が集中して学びに向かう環境を整える。	「授業規律」の徹底を継続して行い、学びへの意欲を向上することができた。	B	引き続き全教員での取組を徹底する。
	イ	I C T機器を積極的に活用するとともに、実験・実習の実施などにより体験的・主体的な学習を実践する。	コロナ禍によりI C T機器を積極的に活用し学びの継続を行った。	B	コロナ禍の影響を念頭に置いて、日常的にI C T機器を活用できるようにしておく。
	ウ	アクティブラーニングを取り入れた授業実践により、コミュニケーション力や表現力等の向上を図る。	各教科で積極的に生徒自らが考える場面を設定し、取り組んでいる。	B	コミュニケーション力向上の活動を模索していく。
	エ	生徒による授業評価を活用した情報共有と教科主任会主体の相互授業参観により、授業力の向上を図る。	毎学期末に授業評価アンケートの実施し、評価を分析して授業改善に生かした。	B	授業評価アンケートの結果をもとに、校内研修等を行い更なる授業力の向上を図る。
生活指導	ア	日常的な身だしなみ指導、遅刻指導、挨拶指導等を全教職員により取り組むことで、生徒の基本的な生活習慣を確立する。	登校時の健康確認、挨拶指導、担任団と生活指導部の連携による遅刻指導を実施した。	A	常に教職員の共通理解を持ちながら、教職員全体で指導できる体制を維持する。
	イ	避難訓練をはじめとした防災教育やセーフティ教室等の安全教育を充実させ、安全・安心な学校づくりを引き続き行う。	秋川消防署や五日市警察等の外部機関との連携を深め、安全教育プログラムを実施した。	A	関係機関と連携した普通救命講習等を取り入れた防災教育に引き続き積極的に取り組む。
	ウ	体育祭や文化祭等の学校行事や委員会活動において、生徒の自主的運営を通じた自治活動の充実を図る。	生徒会や各委員会において活発な話し合いを促し生徒主体の学校行事の運営を行うことができた。	B	生徒会主催の定期考査前の勉強会など、生徒が主体となった活動を引き続き取り組めるようにする。
	エ	教職員の共通理解を図った上で、保護者との連携による欠席・遅刻・早退等の指導などきめ細かな指導を進め安定した学校を維持する。	生徒の欠席・遅刻・早退等に関して保護者と連携を図りながら丁寧な指導を行った。	A	保護者への連絡を密にし、信頼関係の下に家庭と学校が連携・協力しながら生徒の基本的な生活習慣を確立していく。
	オ	自殺防止に向けてS CやY S Wを活用した情報共有を推進するとともに、S O Sの出し方に関する指導を実践する。	S CやY S Wと情報を共有する時間を設定しS Cだより等を活用してS O Sを出しやすい環境を作った。	A	積極的な情報共有を継続し、生徒とのコミュニケーションを充実させS O Sにいち早く気付く環境を構築する。

進路指導	ア	進路希望に応じたキャリア教育の推進と、地域との連携等により、生徒の進路意識を啓発する。	外部機関と連携を図り、生徒の実態に合ったプログラムを実施した。	A	コロナ禍の中でも連携可能な形態のキャリア教育を工夫していく。
	イ	②進路希望に応じた進路ガイダンスの実施やインターンシップによる進路指導の充実を図る。	計画的に進路ガイダンスを行い、進路意識を高めたが、コロナ禍のためインターンシップは実施できなかった。	B	今後も体験活動を通して、生徒に卒業後の進路について具体的に考える機会を増やす。
	ウ	③自立支援チームを中心に高校生の社会的自立を目指す進路支援事業を活用し、進路意識の向上を図る。	社会的・職業的自立支援教育プログラム、Y S Wによるアルバイトセミナー、学業とアルバイトを両立させるためのガイドラインとアルバイト届導入等により職業意識の向上を図った。	A	進路指導主任、自立支援担当教員、Y S W、特別支援教育コーディネーター、S C相互に連携し、卒業後も視野に入れた自立を引き続き支援する。
特別活動	ア	オリンピック・パラリンピックの開催を踏まえ、講演会等を通じて意識を向上するとともに、レガシーの構築オリンピック・パラリンピック教育の推進を図る。	東京オリンピック観戦を予定していたが、無観客開催のため実施できなかった。パラスポーツ意識の向上を図った。	B	オリ・パラ競技に関する理解を深める機会を継続して実施することを検討していく。
	イ	満18歳での選挙権取得を受けて、社会人として必要な意識の向上を図るなど主権者教育を推進する。	学年ごとに主権者教育リーフレットを活用した授業を行い、3・4年生には意識の向上が見られた。	B	外部の専門機関等と連携し、主権者教育への更なる意識向上を図る。
	ウ	総合的な探究の時間、教科指導、行事等における図書館の活用と読書習慣の確立を推進する。	国語の授業や長期休業中の課題で図書館の活用を推進した結果、貸出冊数が昨年比58%増加した。	A	授業や宿題で課された読書活動だけでなく、探究活動など自らの興味関心に合わせて読書活動できるようにする。
健康作り	ア	「アクティブプラン to 2020」に基づく体力テストの活用をはじめ保健体育の授業による体力向上を図る。	体力テストの結果を活用し、体育の授業で毎時間8分間走を行い基礎体力の向上に取り組んだ。	B	保健体育の授業時や部活動において、体力向上や運動への意欲を更に高めるための取組に力を入れる。
	イ	自校調理の給食の喫食率の向上を目指すとともに、食育の実施による健康作りを推進する。	コロナ禍で食育の実施が困難であり、毎回の給食での一言メモを配布するなどして健康作りに取り組んだ。	B	適切な食習慣を身に付けられるよう、特に給食未受給者向けのアプローチ方法を検討し、喫食率の向上を図る。

	ウ	SCやYSWを活用、特別支援委員会を中心とした個別指導の充実により、生徒の心身の健康を増進する。	定期的に情報共有の場を設け、生徒・保護者がスクールカウンセラーやYSWを活用しやすい環境を構築し、安定した学校生活を実現することができた。	A	生徒一人一人の状況にあった対応ができるよう、今後も引き続き悩みや迷いに対して早めにアプローチできる環境を維持する。
	エ	新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、感染拡大を防ぎながら衛生面での学習環境を充実させる。	支援が必要な生徒の情報共有を円滑にすすめるために情報共有の場も設定し、組織的に対応した。	A	毎年情報を更新する必要があるため、年度当初に確認を行い、情報の共有を図る。食物アレルギー研修等必要なことは繰り返し行っていく。
広報活動	ア	特色ある教育課程を踏まえた学校案内、簡易版のチラシ及び学校紹介動画によりPRを充実させる。	本校の特色を踏まえた学校案内や本校の特色ある取組をまとめたチラシを作成し、PRを行った。生徒会を中心に「まなびゅ〜」を作成した。	B	学校説明会等で活用する資料を更新し、より本校の取組や特徴などが分かる資料を作成し、効果的な入試相談を実施する。
	イ	全員体制による中学校訪問と在校生による母校訪問を確実に実施し、組織的・計画的なPRを推進する。	教員全員で分担して近隣中学へ訪問を行った。訪問校数や資料送付校はほぼ同じであった。	A	通学可能エリアの発掘を行い、広報活動範囲を広げ、更に活性化させる。
	ウ	見やすいホームページの作成と定期的な更新、学校見学会や学校説明会の充実など、積極的な広報活動を確実に進める。	感染症対策を講じて学校見学会や学校説明会を行うことができた。学校を紹介する機会を増やし積極的な広報活動を行った。ホームページの更新を積極的に行うことができた。	A	引き続き感染症対策を講じながら、学校紹介を行うことができる機会を増やせるように計画する。ホームページの更新を引き続き行うとともに、ホームページを見てもらえるように工夫を検討する。
学校運営	ア	教育活動を踏まえた予算執行をするとともに経営企画室の学校運営への積極的参加の推進	生徒状況や定時制の教育活動について経営企画室と情報を共有し、適正な予算編成及び執行を行った。	B	今年度同様、不測の事態に臨機応変に対応できるよう、密に連携を取る。
	イ	全日制と定時制の連携を進め、全定双方の教育活動の理解深化による学校の安定化及び活性化の推進	全定各分掌が連携を密にし、双方の教育活動についての理解を深め互いに尊重し安定して取り組めた。	B	教員間ではもとより、生徒間でも互いを尊重する精神を培い、互いに高め合えるような取り組みを行う。

(2) 重点目標と方策

	目 標	取組と自己評価	達成度	課題と対策
①	令和3年度入学生から、昨年度見直した新学習指導要領を見据えた教育課程を実践し、都教育委員会の目指す地域資源や人材を活用した特色化を推進する。	令和4年に向けて、地域との連携を視野に入れた教育課程をまとめた。	B	地域との連携を図るため、具体的な4年間の内容を計画し具体化していく。
②	グループエンカウンターの実施によりソーシャルスキルの向上を図り、社会人となる意識を向上させる。	1、2年生を対象にグループエンカウンターを実施し、ソーシャルスキルの向上を図った。	A	グループエンカウンターの時間以外にも、力を付けられる機会を模索する。
③	全員体制による定期的な校内外の巡回により、いじめなどの問題行動の未然防止を推進する。	定期的に巡回指導に取り組みとともに、精神的なサポートを行い、問題行動を未然に防止した。	B	規範意識等の意識を身に付けさせ、問題行動未然防止の環境を全教職員で整備をする。
④	校内の施設整備を進め学校の財産である天文台などを有効活用して地域との連携を推進するとともに、本校の存在価値を高めながら募集対策の効果を上げる。	天文台を活用した講座等を行いたかったが、コロナ禍のために実施できなかった。皆既月食の観察会を、中学校教諭を交えて実施した。	B	次年度は天文台等を活用し、地域に向けた講座等を実施できるよう計画する。
⑤	毎日の昇降口における挨拶指導を通じて、生徒の心身の健康を向上させるとともに、学習をはじめ学校の教育活動全体に対する意欲の向上も推進する。	登校時等の挨拶運動や生徒の健康観察を通して生徒との信頼関係を構築し、生徒が安心して教育活動を実践できる環境を確保した。	A	全教員体制での指導を確実に実施し、心身の健康を引き続き保てるようにする。
⑥	「ヨルイチ」への参加、和太鼓部の交流及び天文台を活用した観望会などを通じて地域連携を推進する。	地域和太鼓サークルとの連携はできたが、コロナ禍でヨルイチは実施できなかった。皆既月食の観察会を、中学校教諭を交えて実施した。	B	コロナ禍でも行うことができる地域連携を模索していく。
⑦	組織的な生活指導体制を作り実践的な指導を推進するとともに、生徒が安心して学校生活を送れる環境を作る。	生徒や場合によっては保護者を交えた個別相談を取れるように多くの時間を確保できた。	A	一人一人の生徒に応じた相談体制を更に充実させていく。
⑧	学校いじめ防止基本方針に基づき、年3回の調査を中心に、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に取り組む。	いじめアンケート調査を年3回行い、調査結果に基づいていじめ対策委員会を行うことでいじめの未然防止につなげた。	B	日頃から生徒の様子を細かく観察することでいじめの未然防止、早期発見・早期解決を図る。

⑨	3年次研修をはじめとした教員研修を組織的・計画的に進めるとともに業務に必要な研修会を実施する。	OJTを中心とした組織的・計画的な研修を実施した。食物アレルギーや特別支援教育等の校内研修により、意識が高まった。	A	組織的・計画的なOJTにより、教員としての更なる資質・能力の向上を図っていく。
⑩	ライフ・ワーク・バランスの推進に向けて、各分掌、各学年及び各教科等で校内業務の整理と効率化を図る。	ペーパーレス会議の定着により、業務の効率化を図ることができたが、業務量が多く整理する必要がある。	B	業務を効率化させるための工夫を検討する。また、分掌内の業務量の平準化に取り組む。
⑪	体罰防止に関する生徒理解を推進するとともに、計画的な教員研修により体罰根絶に向けて全校的に取り組む。	副校長を講師とした体罰防止研修を年3回実施し、体罰防止について教職員の意識を高めた。	A	体罰防止研修の内容を工夫し、引き続き体罰根絶に向けて意識を更に高める。

【達成度】 A：大きな問題がなく今後も継続する B：一部に課題があり今後修正する
C：課題が残り修正の必要がある

(3) 数値目標

	目 標	令和元年度	令和2年度	令和3年度	課題と対策
①	生徒の授業満足度 80%以上	75.0%	89.0%	97.6%	I C T機器等を効果的に活用するなどして、探究的な学びを行い、学習の成果を発表できる場を設定する。
②	進路決定率 70%以上	70.0%	100%	70.0%	低学年のうちから計画的に指導を行い、希望進路の実現に向けての意識を高め、一人一人の生徒の特性を踏まえた進路指導の在り方を工夫する。
③	遅刻回数 1人月平均 5回以下	2.07回	1.59回	2.39回	登校時の遅刻指導を中心に、全ての教育活動において、時間を守る意識を向上させる取組を全教員体制で行う。
④	中途退学者 10名以内	5名	0名	5名	一人一人の生徒を多くの教員できめ細かく見るとともに、S C、Y S Wや特別支援教育心理士を効果的に活用するなど、組織的な指導を継続し、中途退学者0を目指す。